

- ◆ 想定されるテーマを「**生物多様性評価の地図化**」のフレーム（状態・危機・対策・対策の優先順位の4つのカテゴリ）で整理

- ◆ **各テーマの内容**（解析手法、対象スケール、想定される利用方法など）を整理

- ◆ **テーマ選定の優先度を決める観点**の検討
 - ・ データの更新状況
 - ・ JBO3でのデータ不足
 - ・ 次期生物多様性国家戦略の指標候補 等

【方針検討】

- ◆ 解析テーマの検討（追加修正など）
- ◆ 解析に必要なデータの検討
 - ・ 2年後からの本解析に備えて、元データの有無、精度、利用条件、外部協力依頼の必要性などの確認が必要なデータ
 - ・ 将来的に必要が高く、2年後の基礎調査マスタープランに組み込むべきデータ
- ◆ **テーマ選定の優先度を決める観点**の検討

【予備解析】

- ・ 解析の実現可能性を検討するうえで必要なテーマ
- ・ 直近の重要な施策課題であり速報性が求められるテーマ

【総合解析】

R5~7年

②総合解析テーマ整理（案）

日本の自然環境の現状と変化を示す

生物多様性の状態

生態系

- 日本の自然環境の特徴①陸域②島嶼③淡水④沿岸・海洋
- 重要地域（①過去の重要地域の変化②新たな重要地域）
- 生物多様性ホットスポット
- ハビタットの連結性
- 自然環境の状態の指標開発のための基準データの整備
- 衛星データ解析のための教師データの整備
- 都市の生物多様性指標への活用可能性の検討

種

- 絶滅危惧種・レッドリスト候補種の分布・個体数変化（絶滅リスク評価）
- 元・普通種の分布・個体数変化

危機の状況

第1の危機

- 都市開発
- 観光利用影響
- 違法捕獲・採取
- 都市開発以外の要因

第2の危機

- 放棄農地の拡大
- 二次的自然の変化

第3の危機

- リスクの高い侵略的外来生物の分布

気候変動の危機

- 気候変動による種組成・バイオマス変化
- 気候変動の指標種の分布

基礎調査データの利活用の可能性を広げる

対策の優先順位

1) 保護地域等により保全すべき場所（保護地域とのギャップ分析）

- ①過去または新たに選定された重要地域
- ②生物多様性ホットスポット
- ③人間活動・社会活動によって維持される地域にとって重要な自然

2) 効率的な保全策の検討

- 保全上重要な生態系における対策の実施状況
- 防災・減災目的に管理された自然（森林、遊水地等）における生物多様性

3) 今後生物多様性の損失が予測される地域の把握

- 再生可能エネルギー施設適地と重要地域や絶滅危惧種の分布

対策・取組の状況

- 保護地域の指定状況
- 市町村別自然保護団体数
- 沿岸域における里海活動やモニタリング実施状況
- 企業有地における取組
- 市民による調査の状況
- 自然再生事業の実施か所

③各テーマの内容整理（案）

← : テーマ選定の優先度を決める観点

解析テーマ名	解析の内容を簡潔に表現。
解析内容・手法	解析の目的や対象とする生態系・種群、用いる手法などを記述。
データ（情報源）	調査名（基礎調査は調査回、その他は調査年度）。また「継続中」「以降5年おき」など更新状況。基礎調査（黒字）とそれ以外（赤字）を区別。 ※別の解析テーマを流用する場合は、テーマ番号とテーマ名を青字で表示。
空間スケール	地図の縮尺やメッシュサイズ等の最小認識単位。もしくは解析対象とする範囲（都道府県、市区町村など）
時間スケール	集計・解析・比較を行う場合の間隔（過去50年のうちの2時点の比較、など）。
アウトカムのターゲット（利用目的・利用者）	解析結果の公表方法、および活用主体として想定するもの。
JBO3での情報不足指摘	JBO3で類似の指標・データについて「情報不足」の評価がされていた場合はその旨を記述。
次期国家戦略指標案	次期生物多様性国家戦略指標案で挙げられている指標と合致、もしくは類似するものは、番号と指標名を記述。 ※T1-12-1からT1-14-1までの指標（モニタリング・調査・データ提供等にかかる指標）はこの解析全体にかかるので含めない。